

## 第1学年 道徳科学習指導

### 1 主題名 真の友情【内容項目B 友情・信頼】

資料名 「いつもいっしょに」

(中学道徳1 きみがいちばんひかるとき 一光村図書)

### 2 男女共同参画教育の視点【自立する力の育成】

男女共同参画教育では、個人が自立し主体的に生きていく態度の育成が求められている。ここでいう「自立」とは、生活的自立、経済的自立、精神的自立の3点である。本実践では、3点の中の精神的自立に焦点化し、「他者との関わりの中で、自らの個性を生かしながら正しく判断して行動する力」の育成について、その可能性を述べる。具体的には、道徳の時間において、生徒が課題や発問に対して、実体験から自分と重ね合わせたり、登場人物等が置かれた状況を自分に置き換えたりして想像力を働かせて自分で考えようとし、文章や口頭で言語化し伝えようとする姿が見られるかということである。

### 3 生徒の実態から

本学級の生徒は、物事の善悪の判断は理解しており、助言や指導に対しても言われたことを素直に聞き入れ、忠実に守ろうとする意識は比較的持っている。決まり事も習慣化し、自主的な行動へと結びついてきた。しかし、他者との関わりにおいては、思いのすれ違いや誤解が生じたとき解決する手段を持っていないと感じる。自分がされて嫌だ、傷つくと言う感情はあるが、それを解決するための他者との対話ができない。また、されたことには過剰に反応するが、同じような状況において自分がいやな思いをさせた立場にあるとき、自分の行いを振り返り、非を認めることが出来る生徒は少ない。よって、各自「こうありたい」という理想的な姿は頭にあるものの、実際にはなかなか行動が伴っていないと言える。こうした生徒の姿から、個人が自立し主体的に生きていく態度に課題があると考える。

### 4 これまでの指導の反省から

これまでの自らの指導を振り返ると、「発問→答えを引き出す」という一問一答形式で進めることが多く、生徒の心を葛藤させたり揺さぶったりするなどして、考えを深めさせることができていなかった。特に、板書においては、発問に対する答えを羅列するのみになっており、生徒の思考を視覚化できていない状況で、道徳の時間に何を学んだかが生徒の心に残るものになっていなかった。

このような実践の反省や課題から、道徳の時間において生徒を葛藤させる発問、場面状況や心情を想像しやすい板書を元に、まず個人で自分の考えを作り上げさせる。そして、練った自分の考えを他者に伝えたいという意欲を引き出し、交流を通して生まれる新たな気づきや共感することにより、さらに自分の考えを深めさせる授業を行いたいと考える。

## 5 資料の特徴

本資料「いつもいっしょに」の主人公真理子は、同じバレー部で親友だったみゆきが、1年生でたった1人レギュラーになったことから嫉妬心を持ち始める。あるとき、みゆきから「宿題を見せて」と言われたことをきっかけに、周囲の批判に同調してみゆきを避けるようになり、関係を壊してしまうことになる。真理子は、別の仲間たちと距離が近づくにつれて、みゆきから気持ちが離れていく。しかし、別の仲間の1人である恵子が、親しくしていた由里の悪口



を言っていることを聞く。そのことで我に返った真理子は、やはり自分にとってみゆきは大切な存在であったことに気づき、周囲に安易に同調していじめに荷担した自分を見つめ、友人関係をやりなおそうとする。このように、様々な葛藤を通して、自分にとって真の友情とは何か考え、判断し、一歩踏み出そうとする主人公の姿が描かれた資料である。

本資料は女性の登場人物が中心であるが、主人公真理子やいじめられたみゆきの周りにはクラスメイトがいる。人間関係のもつれからくるいじめについて、「女子の問題」「女子にはよくあること」と一蹴せずに、性差の別なく「人として重要な問題である」と捉えることができるようになるためにも価値ある資料であると考えられる。

## 6 指導の実際

### (1) ねらい

友と向き合い、互いに支え合える友情を築いていくために、自らの正しい判断のもと行動しようとする態度を育てる。

### (2) 本時の授業仮説

○生徒の思考の足跡が見えるための板書の工夫

心情曲線を用いて繊細な心情の揺れを場面の展開に沿って丁寧に読み取らせる。

○生徒が意欲的に思いを表現できるようになるための支援

板書と同様のプリントをノートとして使い、各自が記録することで考えを整理させる。

### (3) 展開

	学習過程・手立て	生徒の反応
導入	○ 「親友」という言葉から連想することについて考えさせた。	S:自分が苦しいや悩みを素直に話すことができる。 S:いつもいっしょにいる。 S:一番仲がいい。 S:なかなかできない。少ない。

<p>展</p>	<p>主人公の行動と気持ちを立場に立って受け止めさせるために心情曲線を用いて心情の揺れを視覚的に見えるような板書にした。生徒にも各自板書と同じ形の学習プリントを持たせ、実際に記しながら心情の揺れをたどらせるようにした。 (写真)→</p> <p>前半では友人への反発や嫉妬から無視するに至るまでの言動や、部活に行かず他の友人とおしゃべりをして過ごすようになったときの心情を共感的、批判的に考えさせた。後半は主人公がこれまでの言動を後悔し、友人との関係修復に向け再び行動をし始めた主人公の心情の変化を読み取っていった。 (写真)↓</p>	 <p>T:これまでの二人の関係を100として、みゆきが「宿題を見せて」と言ったときの真理子の気持ちはどれくらいだろう。</p> <p>S:少し離れたと思う。</p> <p>T:みゆきに「どうして無視するの」と言われたときの真理子の気持ちはどうだろう。</p> <p>S:みゆきに近づいたと思う。だからちょっと上昇する。</p> <p>T:恵子の誘いを断って、体育館に行った真理子の気持ちは？</p> <p>S:みゆきにもっと近づいたと思う。</p> <p>T:でもまた校門へ向かったんだよね。そのときは？</p> <p>S:かなり揺れていると思う。ガタガタ上下している感じ。</p>
<p>開</p>		<p>S:真の友情とはお互いのことをよく考えて、心を打ち明けられるものだと思います。信頼している人には自分の気持ちを打ち明けて、もっともっとその関係を深めたいと思うからです。</p> <p>S:真の友情とは友達のことを大切に思うことで、自分がいじめられるとしても、友達を助けてあげたいと思う気持ち。</p> <p>S:けんかをしたとして仲を戻すために仲直りをして、それを許せる心。</p>
<p>まとめ</p>	<p>「真の友情とは」の発問を投げかけ、資料の中の人間関係に終わらず、学習を踏まえて自分を振り返り、友情観を考えさせた。</p>	

## 7 考察

### 【仮説の面から】

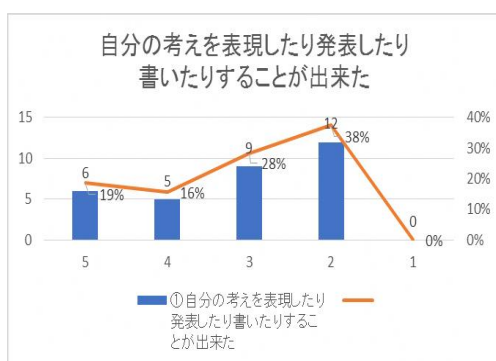
- 生徒の思考の足跡が見えるための板書の工夫

主人公と親友の心の距離感を視覚化するため、黒板全体を使い、ハートマークを用いて上下させることでできごとによる主人公の繊細な心情変化を読み取らせた。それにより今までは言葉のやりとりだけで考えさせていたが、実際に目で見て距離感をつかむことができ、心情の揺れが分かりやすくなり、積極的にプリントに書く様子が見られた。

○ 生徒が意欲的に思いを表現できるようになるための支援

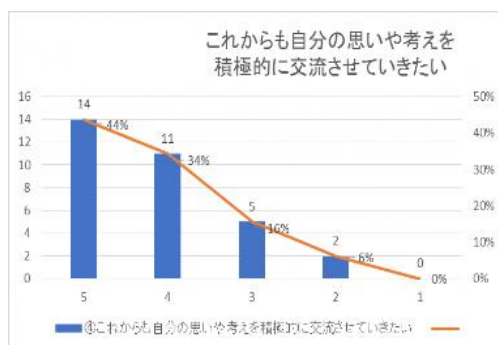
今までは文章表記で考えを書かせることで、自分の考えを表現させていたが、文章で書くことを苦手としている生徒はなかなか進まなかった。しかし、板書ノートとして学習プリントを使うことにより、全員書くことができていた。

【男女共同参画教育の視点から】



「自分の考えを表現したり発表したり書いたりすることが出来た」と答えた生徒は「5」6名(19%)、「4」1名(16%)で全体の35%、「3」9名(28%)、「2」12名(38%)「1」(0%)であった。「3」「2」「1」と答えた事後アンケートによると「自分の考えは持っていたが、発表することが出来なかった」「発表する機会があったのに、自分から発表ができなかった」「なかなか考えが思い

つかない」「自分の考えをつくるとき、その意味が分からなくて書けないときがあった」との記述があった。生徒は表現＝発表というイメージが強く、自分の考えを持ち、書くことは出来たが、それを全体の前で伝えることが出来なかったという振り返りを持っていることが分かった。



「これからも自分の思いや考えを積極的に交流させていきたい」と答えた生徒は「5」14名(44%)、「4」11名(34%)で全体の78%であった。事後アンケートによると「次は自分の意見を積極的に交流させ、自分から授業に参加していきたい」

「考えを班で交流するときに言ってみんなの前でも発表したい」「周りの人に自分の考えを知ってもらいたい」「自分の考えを広げていくために交流させていきたい」「その方が授業を楽しめるから」「交流させ、納得した意見を言ったり、反対の意見などをたくさん言ってもらってもっともっと深めていきたい」という記述があった。

本実践では、「他者との関わりの中で、自らの個性を生かしながら正しく判断して行動する力」の育成について、その可能性を探った。実際に自分の考えの表出に至ったと自覚する生徒は全体の36%であったが、自分の思いや考えを積極的に表出したいと願う生徒は全体の78%であった。以上のことから本実践は、他者との関わりの中で、自らの個性を生かしながら正しく判断して行動しようとする態度を育む上で効果があると考えられる。